科目名	生涯学習概論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	相庭和彦
授業の概要及びテーマ	本科目は以下のような内容により構成される。①生涯学習の意義　②社会教育の意義　③生涯学習と家庭教育 ④生涯学習と学校教育　⑤成人教育の方法　⑥社会教育の指導者　⑦学習の評価　⑧社会教育の内容と形態 ⑨生涯学習関連施策の動向　⑩社会教育施策の概要　⑪学習情報の提供 ⑫学習相談と学習者理解　⑬学習講座計画と立案
達成目標	本講義は現代社会における生涯学習の意義および社会教育の意義とその基本的役割を理解することを到達目標とする。具体的には生涯学習の意義、社会教育の意義、生涯学習と学校教育、成人学習方法と計画、学習の評価および生涯学習推進施策の特色、生涯学習施設、広報の論理、学習講座の運営の論理を理解することを目的とし、学習活動の効果的支援の方法をより効果的に実践できる力量の養成をめざす。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01　生涯学習の意義について考察する 02　社会教育の意義および生涯学習との関連性について考察する 03　家庭教育の意義と生涯学習の関係について考察する 04　学校教育と社会教育の関係について生涯学習的視点から考察する 05　成人教育の理論と方法について考察する 06　社会教育の指導者および生涯学習の指導者について考察する 07　学習の評価について考察する 08　社会教育の内容および形態について考察する 09　生涯学習関連施策について考察する 10　社会教育施策の概要について考察する 11　学習情報の提供について考察する 12　学習相談とはどのようなものかについて考察する 13　学習者の理解とはどのようなことかについて考察する 14　社会教育施設で立案される講座について考察する 15　学習者の学習支援とはどのようなことかを考察する
成績評価基準	講義を通して、生涯学習の理念、意義および社会教育・生涯学習施設の役割とその活用方法を理解し、様々な教育文化活動を生涯学習的視点から考えることができるようになると評価点を与える。具体的には講義をもとにした課題レポート提出により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜指示する
参考書･参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	自分の生活している地域の社会教育施設を見学しておくことが望ましい。
実務経験を活かした授業	

科目名	博物館経営論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	宮崎俊英
授業の概要及びテーマ	博物館の経営実態や課題解決の取組を学ぶことを通して、学芸員として必要な資質・能力の向上を図る。
達成目標	・ 博物館経営者の視点で経営や運営を考えることを通して、学芸員として必要なマネジメント能力、企画力、交渉力などの資質・能力を高める。 ・ 博物館の経営課題の解決策を提案できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01　ガイダンス 02　多様な博物館とその経営Ⅰ（美術系博物館） 03　多様な博物館とその経営Ⅱ（歴史系博物館） 04　多様な博物館とその経営Ⅲ（自然科学系博物館） 05　多様な博物館とその経営Ⅳ（その他の博物館１） 06　多様な博物館とその経営Ⅴ（その他の博物館２） 07　博物館の経営課題とその解決Ⅰ 08　博物館の経営課題とその解決Ⅱ 09　博物館の経営課題とその解決Ⅲ 10　現場視察（情報収集・計画） 11　現場視察（情報収集・計画） 12　運営計画Ⅰ（作成） 13　運営計画Ⅱ（作成） 14　運営計画　プレゼン会 15　総括・振り返り ※現場視察等の対象施設は変更する場合があります。 2019 年度は上越市立水族館と上越市立歴史博物館でした。
成績評価基準	受講態度　30% レポート、ワークシートの提出率・内容　60% レポートのプレゼンの構成力 ・表現力　10%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	必要に応じてプリントして配付する。
参考書･参考資料等	
用具	可能であればインターネット接続環境の PC もしくはタブレット
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	長岡市内等の美術館、博物館を訪れて、具体的に博物館がイメージできるようにしておくこと。
実務経験を活かした授業	

科目名	博物館資料論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎小熊博史、西田泰民、広井 造
授業の概要及びテーマ	さまざまな博物館資料の内容や性質を学び、長岡市内の博物館での実践例を通して、博物館資料の収集保管、調査研究、展示普及に関する理論や方法を考える。下記の三つのテーマで構成する。 １．博物館資料の内容及び性質 ２．考古学における博物館資料 ３．歴史学における博物館資料
達成目標	博物館資料の基本的な見方・考え方を習得するとともに、その実践的な活用の取り組みを理解する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01　博物館資料とは（西田） 02　博物館資料の条件（西田） 03　博物館資料の分類（西田） 04　一次資料と二次資料（西田） 05　二次製作資料（西田） 06　博物館と考古学（小熊） 07　考古資料の見方（小熊） 08　考古展示と普及活動（小熊） 09　遺跡の整備と活用（１）（小熊） 10　遺跡の整備と活用（２）（学外実習）（小熊） 11　考古資料と歴史資料（広井） 12　歴史資料の収集（広井） 13　資料と資料群（広井） 14　資料の活用と地域的特性（広井） 15　歴史資料の共有化・平準化（広井）
成績評価基準	成績評価はレポートにより行う。 出席率が 80%を下回る場合は単位を与えません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書･参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	できるだけ多くの博物館・美術館を見学しておいてほしい。
実務経験を活かした授業	いずれも博物館で学芸員として実務経験のある教員が講義を行う。

科目名	博物館資料保存論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎津村泰範、小川総一郎、大楽和正
授業の概要及びテーマ	学芸員に必要な博物館資料の保存に関する基礎知識を身につけます。講義、調べ学習、グループ・ディスカッションを通して学習します。また、より実践的な力を養うために、異なる２つのタイプの博物館を見学研修し、保存の観点から比較して学びます。
達成目標	博物館における資料の保存について、保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、現場での資料保存のあり方を理解したうえ、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01　現代社会における資料保存に関する博物館の役割と重要性 02　資料の状態調査と現状把握（実際に絵画作品等の状態調書を作成） 03　博物館が関わる資料の修復と修理 04　文化財の保存に関する倫理（１） 05　文化財の保存に関する倫理（２） 06　資料の人為的行為、災害や時間の経過による損傷、劣化防止対策 07　展示・保存環境（１）湿温度、照明と照度 08　展示・保存環境（２）虫・黴害防除、震動、その他 09　博物館資料の展示・保存環境の見学（学内美術館） 10　博物館資料の展示・保存環境の見学のまとめ 11　地域資源の保存と活用１　県立植物園（植物園のバックヤード、種の保存） 12　地域資源の保存と活用２　同上 13　自然環境の保護１　雪国植物園（里山環境の保全、生物多様性の保全） 14　自然環境の保護２　同上 15　文化財の保存と活用
成績評価基準	授業に臨む姿勢 20%、３名の担当教員によるそれぞれの出題による小課題 80%とします。ただし前提として、評価の対象となる出席率は２/３以上とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業内でプリントして配付するほか、適宜示します。
参考書･参考資料等	博物館資料保存論　石崎武志　講談社　2,200 円（税別）『人文系博物館資料保存論』青木豊　雄山閣　2,400 円（税別）
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	博物館資料の保存は学芸員の果たす仕事としては非常に重要であり、難しい。それは技術としてばかりでなく、博物館の範疇がきわめて広いものだからです。履修者は授業中に聞いているだけでなく、必ず復習をして自分なりの考えを持つことが必要とされます。自分が将来就きたい博物館を想定しながら勉強してもらいたい。
実務経験を活かした授業	

科目名	博物館展示論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎森 望、土門真士
授業の概要及びテーマ	博物館における展示の現状を知り、展示計画に必要な基礎知識を学ぶ。 また、実際の博物館の見学を通し、コンテンツ作りや展示現象の具体化を学ぶ。さらに、各人で博物館コンテンツを作成し、それを形にし、プレゼンテーションして提案する。
達成目標	展示作りの方法を体験的に学習し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を身につける。また実際にコンテンツを作り、空間的なデザインを提案できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01　展示とは 02　博物館の展示事例 03　展示に必要な基礎知識（１） 04　展示に必要な基礎知識（２） 05　展示に必要な基礎知識（３） 06　展示と情報メディア 07　博物館の見学 08　博物館の見学 09　博物館のコンテンツ作り 10　博物館のコンテンツ作り 11　博物館のコンテンツ作り 12　博物館展示のデザイン 13　博物館展示のデザイン 14　博物館展示のデザイン 15　発表
成績評価基準	展示企画書 50%、展示空間課題 50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	
参考書･参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	博物館展示は、コンテンツ作りと空間・展示デザインがメインとなる。また外部講師を招聘するので、休まず受講するように。
実務経験を活かした授業	ディスプレイデザイン事務所に勤務経験のある教員が、博物館の展示コンテンツ作成と展示デザインを指導する。また、ディスプレイデザイン会社に現在勤務している非常勤講師が、展示コンテンツの作成について指導する。

科目名	博物館情報・メディア論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎津村泰範、浅井勝利、本多誠一
授業の概要及びテーマ	近年の博物館においては、単に展示物を羅列するだけではなく、情報の集積体としての博物館の役割が求められている。これを実現するためには、コンピュータなどに代表される ICT や AV 機器を含めたマルチメディアの有効活用が必須である。本科目では博物館活動に即した情報やメディアの作成と活用、併せて、これにより生ずる知的財産の保全・利用の基礎について考察する。
達成目標	● 博物館の運営に必要な諸情報・メディアに関する総合的な概要を理解・体得し、これを説明できる。 ● 博物館運営を構成する個別業務に関する知識・手法・機材（使用目的と操作知識・技能）の体得。 ● 博物館運営にかかる知財関連法令の基礎知識を体得し、これの概要を説明できる。 ● 各回講義および予習復習を踏まえて、所要の情報やメディアを博物館活動に利用できる資質を養う。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	本授業は、第１回から 10 回までを浅井勝利、11 回から 15 回を松浦康次が担当します。 01　博物館における情報、メディアの意義 02　コンピュータの基礎知識 03　ドキュメンテーションと資料管理データベース（１） 04　ドキュメンテーションと資料管理データベース（２） 05　博物館とインターネット（１） 06　博物館とインターネット（２） 07　ICT を利用した博学連携 08　ＡＶ機器の取り扱い 09　展示と情報機器 10　補論 11　著作・創作した権利・義務・責任と法令 12　博物館発情報と知的財産権制度 13　著作権法Ⅰ（目的、定義、財産権、人格権、隣接権、権利取得意義、著作権制度発展の歴史） 14　著作権法Ⅱ（権利制限、意匠権との比較、国際条約） 15　産業財産権制度（意匠・特許・実用新案・商標法）・不正競争防止法概観・知財契約、情報モラル、その他
成績評価基準	成績評価は授業に臨む姿勢 20%、レポート 80%とする。ただし前提として、評価の対象となる出席率は２/３以上とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業内でプリントを配付するほか、適宜配付する。
参考書･参考資料等	適宜配付
用具	必要な場合、その都度指示。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	履修者は自分が将来就きたい博物館・美術館を想定しながら勉強してもらいたい。
実務経験を活かした授業	

科目名	博物館教育論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	山本哲也
授業の概要及びテーマ	博物館は余暇施設という側面をもちながら、社会教育施設としてのその意義が理解されなければならない。そのためには、博物館における教育という機能のあり方を認識し、または教育プログラムの理論と実際を理解することが必要である。さらに、博物館の意義が理解されなければ、その教育効果も半減すると考えられ、ミュージアム・リテラシー教育も考えなければならない。本科目では、博物館教育の理論と実践の双方はもちろん、博物館そのものの教育のあり方を学び、教育という博物館の重要な機能を多角的に理解する。
達成目標	博物館を教育施設と捉え、その方法論を考え、実践できるチカラをつける。学校教育、家庭教育との相違を認識し、博物館ならでは、という教育理論を理解し、博物館で行われている各種プログラムや学校教育との連携の実際などから、望ましい博物館教育のあり方の理解を求める。そして、教育プログラムの企画・作成・実践ができる人材を育てる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01　教育と学習（博物館教育論の必要性） 02　教育機能を考える上での「博物館のチカラ」 03　博物館教育論史、展示教育論（序論） 04　展示と博物館教育 05　博物館教育活動の諸形態 06　博物館教育プログラムⅠ―対話型鑑賞法 07　博物館教育プログラムⅤ―さまざまなモノの解釈について 08　博物館教育プログラムⅡ―開発と実践１―ワークシート・ユニバーサルデザイン 09　博物館教育プログラムⅢ―開発と実践２―製作体験プログラム 10　博物館教育プログラムⅣ―開発と実践３―サブカルチャーと博物館 11　博物館教育の利用者像と社会的包摂 12　博物館と学校教育―博学連携 13　博物館教育プログラムⅥ―開発と実践４―演習 14　ミュージアム・リテラシー教育の必要性 15　博物館教育の課題
成績評価基準	演習（教育プログラム作成およびグループワークの成果等）の評価（概ね 75%）、および出席と受講態度（概ね 25%）から総合的に評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜資料を配付する。
参考書･参考資料等	
用具	必要な場合、その都度指示。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	実際の博物館・美術館や、そこで行われている教育プログラム（ワークショップ等）を多数見聞、または実体験することが望ましい。また、それぞれを正当に評価できるチカラを身に付けて欲しい。
実務経験を活かした授業	

科目名	博物館実習
学年	3・4
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	3
担当教員	境野広志、菅原　浩、長瀬公彦、中村和宏、◎平山育男
授業の概要及びテーマ	学芸員資格を取得するため、実際の博物館施設に通い、実物資料に実際に手を触れて、その取り扱い・保管・展示業務の練習を行う。なお、本授業の内、館内実習は、実習の前年度までに他の必修９科目を全科目習得済みで、卒業見込みでなければ受講できない。 テーマ： ３年次の「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館経営論」、「博物館情報メディア論」等で学習した知識を基礎に、実際の博物館等の運営・資料の取り扱いを、夏期休業中に博物館等に１週間～２週間通って、学芸員の指導を受けながら実習する。また学外・学内で、担当教員に実地指導を受ける。
達成目標	学芸員の仕事を実際に体験し、仕事の概要および学芸員として仕事をする上で重要であるポイントをまとめて報告する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01　複数の博物館の見学（見学実習） 02　遺跡・各種文化財の調査（学内実習） 03　展示用具の取り扱いの学習（校内実習） 04　 博物館等に通勤し、学芸員の指導のもと、実際に文化財を取り扱う（館内実習） 05　館内実習の前後に指導を行う（事前・事後指導） 04 が授業の中心である。通常４年生の夏期休業期間（７月～９月）に、１～２週間行われる。
成績評価基準	成績評価は実習先博物館等の評価を中心に、出席およびレポートの成績などを含めて総合的に行う。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書･参考資料等	随時指定する。
用具	
履修制限等	館内実習は、前年度までに他の必修９科目を全科目修得済みで、卒業見込みでなければ参加することができない。
履修希望者への要望・事前準備	この授業は通常の授業と同様に考えてはならない。博物館等の学芸員と触れ合い、実物の文化財資料を取り扱うものであるから、自分が現実にその博物館等に勤務し、学芸員という職業で生活しているものと認識しなければならない。従って、実習予定の取消・欠席・遅刻など不真面目な態度は絶対に許されない。授業でなく「勤務」と考えるべきである。 また文化財資料を破損するような行為をしてはならない。既に自分は就職したものと考えて、社会人と同じ自覚を持った行動が要求される。なおこの授業にかかわるすべての費用は学生の自己負担とする。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術科指導法
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義、演習
単位数	8
担当教員	市川治郎
授業の概要及びテーマ	・ 美術科教育の概要や学校で行われている授業について概説する。 ・ 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。
達成目標	・ 「美術科指導の基礎的能力の育成」を目標とする。 ・ 学校における美術科教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。 ・ 美術科の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。 ・ 教材研究や授業分析などを通して、具体的な指導技術を習得する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01　美術教育の概要（我が国における美術教育の歴史） 02　現行学習指導要領美術編の解説と今後の方向性 03　美術科経営と授業の実際（美術科経営計画、年間指導計画、授業の構成要素） 04　教材研究（１）表現分野（絵画の教材分析、指導案作成） 05　授業研究（１）表現分野（絵画の模擬授業、事前事後検討） 06　教材研究（２）表現分野（彫刻の教材分析、指導案作成） 07　授業研究（２）表現分野（彫刻の模擬授業、事前事後検討） 08　教材研究（３）表現分野（デザイン及び工芸の教材分析、指導案作成） 09　教材研究（４）表現分野（デザイン及び工芸の模擬授業、事前事後検討） 10　授業研究（３）表現分野（映像メディア表現の教材分析、指導案作成） 11　授業研究（４）表現分野（映像メディア表現の模擬授業、事前事後検討） 12　教材研究（５）鑑賞分野（鑑賞の教材分析、指導案作成） 13　授業研究（５）鑑賞分野（鑑賞の模擬授業、事前事後検討） 14　評価計画（評価方法、通知表及び指導要録の評価） 15　美術館等との連携（地域の人材、施設設備の活用）
成績評価基準	受講姿勢：30%、課題の成績：50%、模擬授業の成績：20%を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	中学校学習指導要領解説（美術編）、高等学校学習指導要領解説（芸術編、音楽編、美術編） 中学校美術教科書、高等学校美術教科書 テキスト及び教科書の購入については、別途指示する。 適宜、資料プリントを配付する。
参考書･参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	学習効果を上げるため、テキスト等の当該箇所を参照し、授業内容に関する予習及び復習を行うこと。
実務経験を活かした授業	高等学校教員として美術教育に携わった経験のある教員が、美術科指導法について講義及び演習を担当する。